

私たちは、常に災害の危険と隣り合わせで暮らしています。

我が国は自然災害の多い国で、過去には「阪神淡路大震災」や「新潟県中越地震」、本年は本州を襲った「平成18年豪雨災害」など、近年、毎日のように様々な災害がニュースで放送されています。

災害には「地震」、「火災」、「風水害」などが挙げられますが、幸いにして上川管内、特に本町は自然災害が非常に少ない町です。しかしながら、全くない訳ではありません。記憶に新しいところでは、平成16年の「台風18号による風水害」や本年8月4日に発生した「集中豪雨による落雷停電」が起きています。

災害は、いつ起きるかわかりません。「自分の住んでいる町は大丈夫であろう」、「台風が近づいてから考えればなんとかなる」など、油断は禁物です。

特に本町は、地下水を利用しているため、停電になると給水ポンプが止まり、家で水を利用することが出来なくなってしまいます。

日頃から、家族で防災について話し合う機会を持ち、防災意識を高め、防災に関する対策を行っておきましょう。

非常用備品を用意しましょう

災害が起きたとき一番問題になるのはライフラインが途絶えることです。ライフラインとは、電気や水、ガス、道路など生活に欠かせない資源です。災害が起きてから支援体制が整うまでの最低3日間は自分で身を守る心がけが必要です。

あなたの家庭には必要な災害準備品が揃っていますか？チェックしてみましょう!!

準備品	準備するために必要なこと	チェック
懐中電灯	災害があったとき一番起こる可能性の高いのが停電です。暗闇でのケガを防ぎ、恐怖心を和らげます。 	<input type="checkbox"/>
携帯ラジオ	自分のまわりで何が起きているのか、救護情報は？ 電気が止まったときに頼りになるのは携帯ラジオです。 予備の電池を忘れずに。 	<input type="checkbox"/>
水 (ポリタンクなど)	地下水の町「東川町」では電気が止まれば、水の利用は出来ません。 食事、トイレなど水は生活に不可欠です。 1人1日3リットルの水を3日分準備するのが理想です。 また、給水施設が開設した時には水を入れるポリタンクなどが必要になります。 一部の避難所(町内5箇所：海洋センター、西部地区コミュニティセンター、第一地区コミュニティセンター、第二地区コミュニティセンター、第三小学校)と役場に非常用の発電施設を整備していますので、給水とトイレ利用は可能です。 	<input type="checkbox"/>
非常用食材	道路が寸断されれば救援物資の到着時間が遅くなることも考えられます。カンパン、インスタント食品や調味料など最低3日分は準備しましょう。	<input type="checkbox"/>
医薬品	災害によるケガ、不安感から体調を崩すケースなどが非常に多くなります。そんなとき病院が使えなかったら・・・。包帯、絆創膏、ガーゼ、はさみ、ピンセットなど医療用器具のほか、かぜ薬、解熱剤などの医薬品、体調を維持するためのビタミン剤など栄養補助薬品もあると役立ちます。	<input type="checkbox"/>
衣類	急な避難所への移動、また、暖房が使えなくなった時の寒さ対策のため、「下着+暖かさを保てる服装」を中心として用意するのが理想です。	<input type="checkbox"/>
燃料	暖を取るため、調理のため燃料があると便利です。 キャンプ用の固形燃料があればかさばらなくて便利です。 カセットコンロや携帯カイロもあると重宝します。 	<input type="checkbox"/>
その他	保険証、貴重品、非常用現金などはすぐに持ち出せるように普段から場所の確認をしましょう。また、手を保護する軍手もいざというとき役立つグッズです。携帯電話は緊急時に回線が制限されますが、今では生活に不可欠なもの。バッテリー切れに備えて乾電池やシガーソケットの使える充電器も用意しましょう。	<input type="checkbox"/>